

「今、私の晴雨計は！」

60

「平成から令和に思うこと」

新たな元号 “令和” がスター

トして一か月半が経った。ようやく少しなじんできた。スタートした五月初にはテレビや新聞では盛んに “平成” を振り返り “令和” を展望する特集が組まれた。地元のテレビ局や新聞から私のところにも取材があった。考えてみれば30年のうち12年知事を務めたからだろう。そう思ったら私なりに平成を総括するべきと思いまとめてみたら以下のようになった。

①米ソ対立という冷戦構造は崩壊したが、テロの蔓延や米中対立という新たな覇権争い(結構深

刻で長引きそう)が生じ、非核化の停滞も含め世界平和の確立には程遠い状況。

②世界経済はグローバル化とEUなどブロック化が進展したが、それ以上にGAF Aなどによるインターネット経済への転換が進み(第三次産業革命)、ネット販売やキャッシュレスの広がり、人々の生活に革命的影響を及ぼしている。

③国内的には55年政治体制は完全に崩壊、小選挙区制への移行による政権交代はあったが、自公体制による政権奪回、その後の保守化と野党の分裂により、権力の集中が進んでいる。

④戦争に参加ないし巻き込まれることはなかったが、集団的自

衛権の解釈変更をはじめ「九条のある特別な国」から普通の国への転換が進み、憲法改正の動きが初めて具体化している。

⑤国内経済はバブル崩壊後成長率が大幅に鈍化、デフレからの脱却を目指して政府・日銀一体で超金融緩和を柱とする「アベノミクス」政策が執られているが、六年目にして未達成。株価の回復や失業率など一部に効果ありとの指摘もあるが、反面財政赤字の累積、マイナス金利の弊害、人口減少と東京一極集中、地方経済の衰退など副作用が見られている。

明治維新以降の近代日本が目指した国家目標は「殖産興業」による「富国強兵」。それにより欧米によるアジアの植民地化から

逃れようとしたことは、当時としては正しい選択だっただろう。それがやがて列強の仲間入りをして支配側に回り、その目標の達成のため太平洋戦争まで起こしたのは、どう考えても間違っていた。日清・日露の二つの勝利が軍事政治体制を生み、太平洋戦争に突き進んだのだが、なぜ勝ち目のない大戦をしかけたかと疑問は残る。

敗戦後は「経済大国」を目指すことにより「富国」路線を継続した。目標のかなりは高度成長を経て達成されたが、平成に入ってからブル経済崩壊後はそれもうまくゆかなくなり、日本は世界におけるプレゼンスを近年低下させている。GDPの大きさでは米中に次ぐ三位だが、一人当たりGDP

では26位にまで低下している。

今後世界に先駆けて高齢化が進み、労働人口が確実に減少してゆくから、この傾向は一層拍車がかかるだろう。そう考えると「令和」

の時代は、平成と同じように「経済大国による富国」を目指すことは難しいのではないか。勿論、経済成長を目指すなど言っているのではなくて、困難だと言っているのだ。困難なものを目指すのは賢い国家の選択だろうか。

経済成長は「働く人の数、投資された資金の量、それに労働の生産性」で決まるわけだから、常に技術革新を中心に生産性の向上は追求すべきだし、それによって必要となる設備投資は積極的に行うべきである。それでも働く

人の数が着実に減少してゆくこれからの時代には、それほど高い成長は望めないだろう言っているのだ。

「令和」の名付け親である中西進さん（京都市立芸術大学名誉教授）は、はじめはそのことを肯定されなかったが、最近では認めて積極的に令和の意味を語っておられる。「平和であった平成の次の時代はそれをさらに推し進めて「麗しく平和」な時代であって欲しいと願い、麗しいを意味する「令」を入れた」と述べておられる。「Beautiful Harmony」とも言っておられる。よくわかる説明だ。大戦で多くの死者を出した「昭和」への反省と悔恨から始まった戦後の昭和、そして平成の

30年、この後もそれを引き継がなくてはならないが、平成よりさらに一歩進んだ平和の希求として「麗しく」あるべきだという

のだ。そしてこれからの日本が目指すべき国として中西さんは「明治の前半まで日本が持っていた賢く誇りを持った小国であろうとした考えを忘れ、大国だとおごりを持ってしまった。今、もう一度小国主義の議論をすべき。小国は真珠のような国、どこにあっても光り輝く国です。平和憲法にもそうした輝きがあります」と述べている。傾聴すべき示唆だと思う。万葉集に由来する初の国産元号ということにのみ価値を置かれ始めたことに違和感を感じて、中西さんは表に出て解説を始めら

れたように思える。でも現在の政府等には真珠になる考えはないだろう。

「令和」の時代には人口減少、低成長、地球環境の限界、米中の覇権争いなど、この時代を規制する種々の条件が既に見込まれているが、一番大きな要素はAIだ。AIについては、現在様々な影響が予想され「第四次産業革命」を齎すとして話題となってきた。とくに20〜30年後には現在の職業の半分がAIロボットに取って代わられる（タクシーの無人化など）、二〇四五年には人工知能が人間の知能を上回る「シンギュラリティ」が生じるだろうということなどが関心を呼んでいるほか、AIロボット軍による戦

争についての国際的ルール作り

などの議論が始まっている。もう

一つはAIが齎す医学的進歩でAI

診断、AIロボットによる外科手

術やナノテック治療等により寿命

一〇〇歳時代をさらに伸ばすと

みられている。これが人間の人生

設計だけでなく、資本主義を枠組

みとしてきた社会システムその

ものにも影響するだろうとみら

れている。“G A F A”による第

三次産業革命を遥かに上回る影

響が予想されている。そうである

ならば、AI技術の開発・応用に

ついては、営利目的の企業ベース

ではなく人類共通の技術として、

開発、利用について管理すべきで

はないかと私は主張しているの

だが現状残念ながら少数意見の

ようだ。

社会システムそのものが大き

く変わるかもしれない令和は平

成以上に激動の時代になるだろ

う。残念ながらそれを見届けるこ

とは私は出来ない。AIロボット

により人々が失業するのか、労働

から解放されるのか、両極端の議

論がされているが、そんな時代日

本はどんな国を目指すべきなの

だろう。「富国」ということが「豊

かな国」を意味し、「豊かさ」が

これまでは経済的な豊かさを意

味していたから「経済大国」を目

指してきたというなら、それが困

難な令和は何をもって豊かな国

を創るべきなのか。

一番の問題は、AI時代の本当

のところはわからないことだ。何

故ならAI技術の進歩が齎すであ

ろう生産性の向上の大きさ自体

不明だし、それによって経済成長

がどう変わるか、ロボット企業が

生み出す利益から支払われる税

を財源とするベーシックインカ

ム（基本所持BI）のレベルも不

透明、さらにはカナダのある都市

でのBI実験では、失業（労働から

解放）した人たちの多くは、BI所

得に満足せず人間でなくては出

来ない分野での起業を企てよう

とした、と報告されている（ただ、

その帰趨は、市長の交代でBIが

打ち切られたため不明）。

万一向まくAI効果で成長率が

高まるとしても、もう一つのこの

時代の困難な課題、「地球環境上

の制限」から、多資源消費型の成

長を追い求める社会システムは

無理となるだろう。なかなか変動

要因が大きく、読めない時代だ。

AIロボットを支配した少数の人

と失業した人々の間には今以上

の大きな格差が生じるとも予想

されている。令和が“冷和”にな

る危険性がそこにある。一番大切

なことは「お互いが助け合う豊か

で優しい心」のように思えてなら

ない。そしてそれはこれまでのい

つの時代でもそうだったはずだ。

ここからは日本史の遊びだ。元

号がついた出来事を思いつくま

ま集めてみた。事件内容別に分類

して見たら、「乱」が多く、いか

に戦いが多かったか再認識した。

さあ、どのくらい中身を理解して

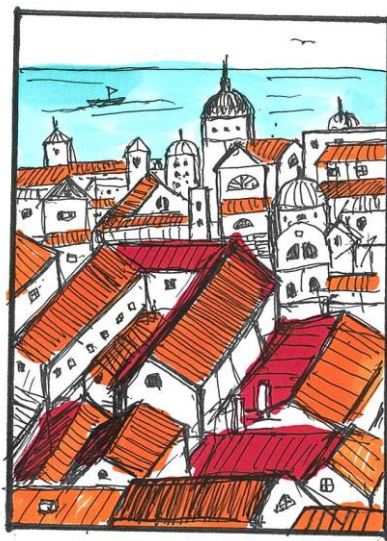
いるか試してみてください。

乱(役)―承平・天慶の乱 保
元・平治の乱 承久の乱 文永・
弘安の役 応仁の乱 文禄・慶長
の役 慶安の変 天保の乱

その他―正長の土一揆 天正
の少年使節 安政の大獄

(令和元年6月7日)

改革―大化改新 建武の中興
正徳新令 享保・寛政・天保の三
大改革 文久の改革 慶応の大
政奉還 明治維新 昭和維新
災害等―延暦・貞観・宝永の富
士の大噴火 天明の浅間山大噴
火 明暦の大火 寛永・享保・
天明・天保の四大大飢饉 安政の
大地震
文化等―天平文化 元禄文化
文化文政(化政)文化 慶応義塾
大正ロマン 昭和元禄
制度等―大宝律令 和同開珎
永仁の徳政令 安政の五か国条
約 大正デモクラシー



大姉さまの町 正